

平成23年度の受章者

秋の叙勲

瑞宝中綬章

友吉 唯夫 (昭31年卒)
滋賀医科大学名誉教授

源河 圭一郎 (昭36年卒)
元 国立療養所沖繩病院長

久萬田 俊明 (昭43年卒)
元 京都通信病院長

野崎 光洋 (教室会員 医化学)
滋賀医科大学名誉教授

芝蘭会の皆さま、新年あけましておめでとうございます。
昨年は東日本大震災と福島原発事故の年として、長くわが国の歴史に刻まれる年となりました。同時にとても大変な年でもありました。この影響はこれから長期にわたって社会に及ぶものと考えられますが、大学も例外ではありません。人件費を主とする運営費交付金の大幅削減も避けられない状況です。このような状況下で、いかにして意識



新年あいさつ

芝蘭会会長 湊 長博



第173号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主な内容

- ② 武藤誠教授に日本医師会医学賞 新任あいさつ
- ③ 京大関係病院長協議会定例総会 芝蘭会・臨時総会・評議員会・理事会 校友会・KMS・FUNDだより
- ④ 第66回原爆災害総合研究調査班避難者の集い 支部だより 静岡 支部だより 香川・滋賀・近畿北 支部だより 愛媛 支部だより 愛媛 支部だより 愛媛
- ⑤ 人事異動・会員計報

意識と組織の改革推進へ

教育・研究・部局運営

格段の支持・協力を

と組織の改革を進め、機能的に質の高い大学を維持発展させていくか、平成24年は文字通り大学独立法人化の真価が問われる年になるでしょう。

学部長・研究科長を拝命してすでに1年以上経ちましたが、新年にあたり教育・研究・部局運営について現状と本年の方針について簡単に述べさせていただきます。

大学院教育については、成宮元研究科長時代に導入された大学院改革はグローバルCOEを経てほぼ確立定着し、今年度は定員を大きく超える約200名の大学院応募者がありました(定員割れの多い他大学の医学研究科に比し、群を抜いています)。しかしMDの基礎研究離れは依然として続いており、将来の基礎医学研究・教育への深刻な懸念となっています。

このため他の3大学(東大、名大、阪大)との連携で文科省から5年間の予算措置を受け、昨年からは基礎研究者養成コースを開始、さらに今年から基礎研究者志望大学院生に対する奨学金制度もスタートし、少しずつ環境作りは進んでいます。

むしろ問題は医学部教育です。初期の全学共通教育は「無政府状態」、中期のレベルシステム教育は「無秩序状態」、そして後期の卒前研修は「グローバルな外圧により強く改善を要求されている状態」です。特に全学レベルでの共通教育システムの再構築(ようやく全学での改革機運は、成宮元研究科長時代に立ち上げ、運用を開始しました。幸い、この概算要求は本年度文科省から4年間の予算措置を受けることができるので技術教員をもつ本格的なコア・ファシリテーターとして発展させ、広く外部からもアクセスできる体制を目指しています。

また、研究科内センタリの統廃合による機能的効率化も進みつつあり、これは全学レベルで関連部局や研究所にも波及されるべきものと考えています。

最後に部局運営について、民間との大型協同によるメディカル・イノベーション・センター(MIC・成宮センター長)はようやく運営体制も確立し、経産省の補助による新しいMIC棟の建築も始まりました(来年春にはIPS研究所の北に第一期MIC棟が完成予定)。

また、この春に耐震工事を終える南西病棟は新たに生命系共同研究棟(オーブンラボ)に生まれ変わります。民間との大型協同研究事業はあくまでも医学研究科の主導の下にMICが自主運営するものであり、創薬や医療機器開発研究にどうやら若手研究者の確保や部局の自立的財政運営において重要な役割を持つものです。

ができました(長く漫然と続けられてきたレベルシステム・カリキュラムの再検討(特に初期の基礎生物学教育とカリキュラムの統合再編)は喫緊の課題になっています。この改革実行の中核は医学教育推進センターであり、昨年就任された小西教授を中心に同センターを人的にも一層強化し、1年から6年まで一貫したバランスのとれた学部教育の形をもう一度考える必要があるでしょう。医学部教育改革は本年度からの最重要課題であると考えています。

次に研究に関して、本研究科に現在決定的に欠けていたのはいわゆるコア・ファシリテーターです。研究技術の高度化と多様化は加速化しており、大型機器や特殊技術の集約と共有化は効率的な研究推進(特に若手研究者の)に必須条件になっていきます。このため、構内の個別の教室やセンタリに保たれていた大型機器や新規に購入した汎用機器を改築したF棟3階に集約、技師を常置して、昨年末に研究支援センター

を立ち上げ、運用を開始しました。幸い、この概算要求は本年度文科省から4年間の予算措置を受けることができるので技術教員をもつ本格的なコア・ファシリテーターとして発展させ、広く外部からもアクセスできる体制を目指しています。

また、研究科内センタリの統廃合による機能的効率化も進みつつあり、これは全学レベルで関連部局や研究所にも波及されるべきものと考えています。

最後に部局運営について、民間との大型協同によるメディカル・イノベーション・センター(MIC・成宮センター長)はようやく運営体制も確立し、経産省の補助による新しいMIC棟の建築も始まりました(来年春にはIPS研究所の北に第一期MIC棟が完成予定)。

また、この春に耐震工事を終える南西病棟は新たに生命系共同研究棟(オーブンラボ)に生まれ変わります。民間との大型協同研究事業はあくまでも医学研究科の主導の下にMICが自主運営するものであり、創薬や医療機器開発研究にどうやら若手研究者の確保や部局の自立的財政運営において重要な役割を持つものです。

医療支援の報告

東日本大震災関係シンポ

京都大学附属病院は、9月29日(木)、東日本大震災関係シンポジウム「大震災後の医療・診療・感染症防止を考える」を百周年時計台記念館百周年記念ホールにて開催しました。

同シンポジウムは、当院及び医学研究科が、東日本大震災発生直後より行ってきた被災地などへのさまざまな医療支援活動について、一般の方々にも広く報告することを目的として開催したもので、当日は、学内外から120名余りの参加がありました。

シンポジウムでは、坂田隆造副病院長より「京都大学における医療支援体制」について講演が行われた後、大鶴繁先生(京大病院救急部助教)より「災害派遣医療チーム(DMAT)による支援」について、三上芳喜先生(京大病院病理診断部准教授)より「検死医としての活動」について、石井和樹さん(医学部人間健康科学科4年生)より「東松島におけるボランティア活動から」について、山崎信幸先生(京大病院デイ・ケア診療部院内講師)より「福島県における『京都府心のケアチーム』の活動」について、濱西潤三先生(京大病院産科婦人科助教)より「宮城県石巻赤十字病院への産婦人科医師派遣に参加して」について、村中弘之先生(京大病院心臓血管外科助教)より「近畿ブロック4大学による医療支援」について、高倉俊二先生(京大病院感染制御部助教)より「被災地における感染症防止」について一般講演が行われました。

引き続き、小池薫先生(京大病院救急部助教)より「福島第一原子力発電所の事故を踏まえた今後の緊急被ばく医療」について特別講演が行われました。

最後に、坂田隆造副病院長より「今後の被災地への医療支援」について講演が行われました。



講演する坂田副病院長



特別講演する小池先生

武藤誠教授に 日本医師会 医学賞

医学研究科遺伝薬理学 大腸がん研究評価



武藤誠(たけとう まこと)
教授(昭和48年医学部卒)

(Medical Award of The Japan Medical Association) は日本医師会会員で、医学上重要な業績をあげた研究者に授与されるもので、毎年1回、基礎医学・社会医学・臨床医学を通じて3名に授与される。

武藤氏は最初に腸のポリプ(腺腫)を発症するAPC遺伝子ノックアウトマウスを作出し、家族性大腸腺腫症(FAP)のモデルであるこのマウスでシクロオキシゲナーゼ2(COX-2)の遺伝子破壊が腫瘍抑制に関与することを報告した。また、COX-2の産物の一つであるPGE2がEP2受容体を介して血管新生を促すことも見出し、次に、この腺腫が浸潤性の腺がんになる1つの機構としてTGF-βシグナルの遮断が関与することをAPCマウスにSma d4遺伝子変異を導入して証明し、この局所浸潤にがん細胞が分泌するCCL9ケモカインと、その受容体CCR1をもつ未分化骨髄球(iMCs)が関与することを発見した。

武藤氏は最初に腸のポリプ(腺腫)を発症するAPC遺伝子ノックアウトマウスを作出し、家族性大腸腺腫症(FAP)のモデルであるこのマウスでシクロオキシゲナーゼ2(COX-2)の遺伝子破壊が腫瘍抑制に関与することを報告した。また、COX-2の産物の一つであるPGE2がEP2受容体を介して血管新生を促すことも見出し、次に、この腺腫が浸潤性の腺がんになる1つの機構としてTGF-βシグナルの遮断が関与することをAPCマウスにSma d4遺伝子変異を導入して証明し、この局所浸潤にがん細胞が分泌するCCL9ケモカインと、その受容体CCR1をもつ未分化骨髄球(iMCs)が関与することを発見した。

京大医学部附属病院では、平成23年10月30日(日)に、平成23年度京大関係病院長協議会定例会総会を芝蘭会館にて開催しました。

本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企画することを目的として、年一回、定例会総会を開催しているものであり、学内外から150名余りの参加がありました。

定例会総会では、三嶋理晃病院長及び湊長博医学研究科長の開会挨拶、三嶋病院長からの京大病院報告の後、講演Iとして、羽賀博典教授(病理診断部長)より「病理診断部の紹介」について、平家俊男教授(小児科長)より「小児発熱疾患診療の新展開」について講演が行われ、引き続き、講演IIとして、小池薫教授(救急部

伝子を壊すと腺腫の数や大きさが著明に減少することを発見し、非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)やCOX-2阻害薬でポリプ症を治療し、がん化を予防できることを報告した。また、COX-2の産物の一つであるPGE2がEP2受容体を介して血管新生を促すことも見出し、次に、この腺腫が浸潤性の腺がんになる1つの機構としてTGF-βシグナルの遮断が関与することをAPCマウスにSma d4遺伝子変異を導入して証明し、この局所浸潤にがん細胞が分泌するCCL9ケモカインと、その受容体CCR1をもつ未分化骨髄球(iMCs)が関与することを発見した。

またiMCsは肝臓へ播種した大腸がんの転移増殖にも必須であると同時に、CCR1阻害薬で抑止できることを証明した。

し、さらに、大腸がんの遠隔転移を抑制する遺伝子Aesを同定し、AESTタンパクが核内でNotchシグナル伝達の転写因子Rbpjに結合した。がん死亡の大部分は転移が原因なので、この研究はがん転移の予防と治療や今後のがん研究に新しい希望を拓くと期待される。

講演聞き親睦も深める 京大関係病院長協議会定例会総会

京大医学部附属病院では、平成23年10月30日(日)に、平成23年度京大関係病院長協議会定例会総会を芝蘭会館にて開催しました。

本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企画することを目的として、年一回、定例会総会を開催しているものであり、学内外から150名余りの参加がありました。

定例会総会では、三嶋理晃病院長及び湊長博医学研究科長の開会挨拶、三嶋病院長からの京大病院報告の後、講演Iとして、羽賀博典教授(病理診断部長)より「病理診断部の紹介」について、平家俊男教授(小児科長)より「小児発熱疾患診療の新展開」について講演が行われ、引き続き、講演IIとして、小池薫教授(救急部



開会挨拶する三嶋病院長

講演する石井先生(石巻赤十字病院 医療社会事業部長)

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

開かれた23年度臨時総会・評議員会

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部学生会館内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

学生会館 一層の支援を

KMS・FUND委員長 吉村 長久

芝蘭会員の皆さまのご厚意によって誕生した学生会館が竣工1年を迎えました。今や、学生会館はクラブ活動の部室として、あるいは勉学の場として、学生たちの学業・余暇活動に欠くことができない施設となつています。しかし、すでに何度かご案内のとおり、現状は完成というにはいささ

善の希望が寄せられています。この学生会館には合計23のぼるクラブが部室を構えています。このため、日常的にいろいろな問題が発生します。また、多数の学生が日々出入りをしますから学生会館のHouse keepingはなかなか大変な作業量になります。このようなことで、当初はせっかく良い建物を用意しても、手入れが悪く、たちまち元の部室のような状況になることを心配しましたが、学生たちの自治活動と医学研究科事務職員のご努力によって、思っていたよりは「きれい」に利用ができています。クラブ間



の利用上の問題もいくつか発生はしていますが、比較的うまく調整ができています。今後、学生諸君には建築の経緯をよく理解して、丁寧に利用していただくことを希望しています。



勉学の場として利用されている学生会館

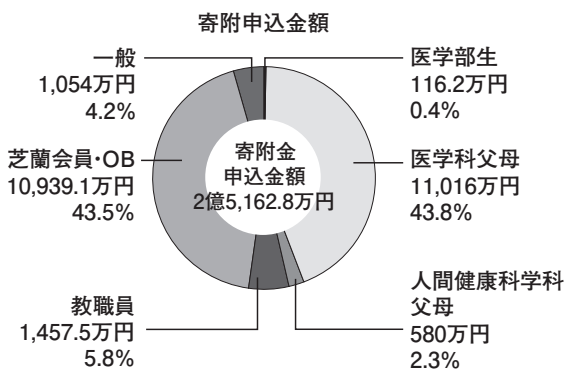
このような状況はできるだけ早期に改善する必要があります。ほかに、学生諸君からいくつか改

蘭会会員のご厚意によるもので、国はもちろん、大学本部も一切出費をしていません。

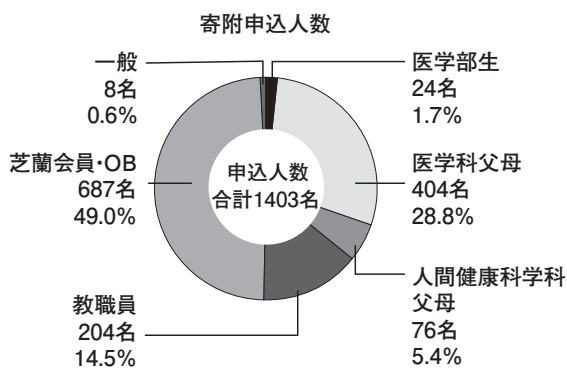
現在、KMS・FUNDには2億5000万円ほどのご寄附をいただけています。芝蘭会報第170号に成宮教授が書かれておられるように、京都大学医学部の最大の資源は毎年入学してくる優秀な学生にあり、この優秀な学生たちが良い環境で勉学・クラブ活動に励み、将来、医学・医療の発展に寄与できる基礎体力を身につけるためにも学生会館を今後ともよろしくご支援

KMS-FUND 寄附金

平成23年12月28日現在



〔図1〕



〔図2〕

2011年には、東日本大震災が発生し、震災復興支援の

センター試験まであと数カ月となった秋、娘から突然、医学部に志望を変えたいと相談を持ち掛けられた。娘の意思はすでに固まつており、相談というより宣言に近いものであった。医学部には理系3科目が必要であるが、娘は物理の授業を受けてこなかった。それを3カ月かそこらで準備するというかなり無謀な挑戦である。しばらく開いた口が塞がらなかったが、何より京大の学風に慣れ、何が何でも京都大学に行きたいという希望が変わらない以上、他大学の医学部を勧めるわけにもいかない。何を隠そう親である私自身が、浪人生活半ばの秋になって突然、医学部に志望変更したことは、娘も百も承知である。「医

後方支援部隊参入!

校友会会員 川上 賢三

この春、晴れて京都大学医学部に入学し、親子共々芝蘭会員になったわけだが、私も大学での教官から今の県立病院に赴任して17年、久しぶりに



近代的な建物で埋め尽くされるほどに研究施設が充実している。そして学生の父母会であるこの校

友会ができていた。

祝賀会での医学部長をはじめとする現教授先生の話の聞いていると、私もが入学したころとは大きく様変わりしている。痛感した。「医者になるだけならわざわざ京都大学医学部までくる必要はない。ここを卒業するからには日本の、いや世界の医療を、基礎も臨床もリードする医療人になつてもらわねば困るのだ」と、僕らが言い聞かされたのは、学部に入ってからか入局してからであつたように思う。ところが今は、京都大学医学部に入ったのだという意識付けが入学時からされている。医師としての資質を持つているか否かは入学試験だけではとうてい推し量ることはできないが、確かに能

母の想い

校友会会員 高田 道子

三男は今年卒業し、研修医として先輩の先生方に学び、人間性豊かな感性を磨き、患者さんの心を理解し、的確な診断を下し、社会に貢献できるようにするため毎日を送っている。信じていま



いよいよ卒業となり、3月11日の東日本大震災

で、京大卒業生も三人が犠牲となられ、親として心が凍り、言葉もありませんでした。学士号授与式で湊医学部長さまから授与されました時には、やつと社会に出せた安堵感から胸が熱くなり、卒業記念懇談会では、雲の上の存在でいらっしやる教授方や同窓生の皆さまに身近にお会いでき、医学部に在籍させていただいたことに誇りを感じました。結局京都・京大を愛した三男は京都から離れられず京都医療センターでお世話になっていきます。今思えば下宿を訪ねるたびにお互いの近況を報告しあつた六年間は、私にとっても楽しい年月でした。これから体は気をつけて自分の進むべき道を定め、京大医学部という日本、いや世界の医学をリードする立場にほんの少しでも関

平成24年 校友会総会・講演会のお知らせ

校友会設立5周年記念総会として、
平成24年9月29日(土)開催

ゲスト講演者:
京都大学IPS細胞研究所(CiRA) 所長 山中伸弥教授

最後に私を支えてくれた主人に感謝。校友会がますます発展していけることを祈りいたしております。

皮膚再生医療の 現状と展望学ぶ 鈴木茂彦教授講演



記念撮影する静岡支部総会出席者

支部だより

【静岡】平成23年8月20日(土)にオークラアクトシティホテル浜松にて芝蘭会静岡支部総会が行

われました。静岡市立静岡病院院長・島本光臣先生の挨拶により開会、ま

ず物故会員への黙祷、芝蘭会新公益法人制度移行

次講演会は座長に井

上邦雄先生、講師に京都大学医学部形成外科科学講座・鈴木茂彦教授を迎えて行われました。内容は「皮膚再生医療の現状と展望及び京大病院における医師主導治験の報告」でした。日本における皮膚再生医療の歴史はまだ浅く、培養表皮の生着には時間がかかるために日本でも諸外国でも製品化はされていません。そこで京都大学は膠原性の少ないアテロコラーゲンとスポンジを用いた人工真皮開発の着手に乗り出しました。人工真皮のスポンジ内に血管や線維芽細胞が浸潤し実際の真皮成分と置き換わることで生着させ、後に表皮を表面に追加すること

皮膚を再生させる仕組みです。指趾切断時などに人工真皮は有用で京都大学医学部附属病院では使用後5年以上使用した後の成績評価も非常に良くなっています。また従来のものでは生着に時間がかかってきたため感染巣のある皮膚の再生には向きでしたが、人工真皮部のスポンジをbFGF(basic fibroblast growth factor)を加えたゼラチンに代替することで、生着時間を大幅に短縮し潰瘍などの病気に対しても応用できるようになりました。この時に京大病院ではわが国初となる医用材料の医師主導治験に成功しました。

今後の皮膚生成医療分

69回・2010(平成22)年版 芝蘭会会員名簿

平成22年12月に発行いたしました会員名簿は若干残っています。会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせください。

なお、次回名簿刊行は平成24年12月を予定しております。

会員名簿：A4判、890頁
会員頒布代：一部5,250円(消費税を含む)
(但し、会費納入者に限る。その他は10,500円)
送 料：700円

【ご注意】

最近、芝蘭会の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたつて、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意ください。よろしくお願いいたします。

芝蘭会 事務局

TEL: 075-751-2713 FAX: 075-752-4015

献花する 湊医学研究科長



京都大学原爆災害総合研究調査班は、1945(昭和20)年8月6日に原子爆弾が投下された広島にいち早く赴き、被爆者の診療及び調査研究を行っていましたが、同年9月17日に西日本を襲った枕崎台風により、滞在先の大野陸軍病院が山津波に見舞われ、調査班の班員のうち教職員・学生の11人の方が多くの患者とともに犠牲となりました。

本年も雨の中、現地(広島県廿日市市宮浜温泉(旧佐伯郡大野町))に建立された慰霊碑の前で、平成23年9月17日(土)午前10時から、第66回京

都大学原爆災害総合研究調査班遭難者の慰霊が自由参拝にて執り行われました。御遺族、本学名誉教授、廿日市市長、同市議会議員、広島大学医学部長(代理)、広島市関係者、広島京大関係者、木村芝蘭会広島支部長、湊医学研究科長、三嶋病

芝蘭会 東日本大震災支援募金

平成23年7月より開始した芝蘭会東日本大震災支援募金の現状は次のとおりです。

(平成23年12月20日現在)
567件 7,780,000円

このうち、600万円は平成23年8月12日に医学研究科東日本大震災支援基金に寄附いたしました。

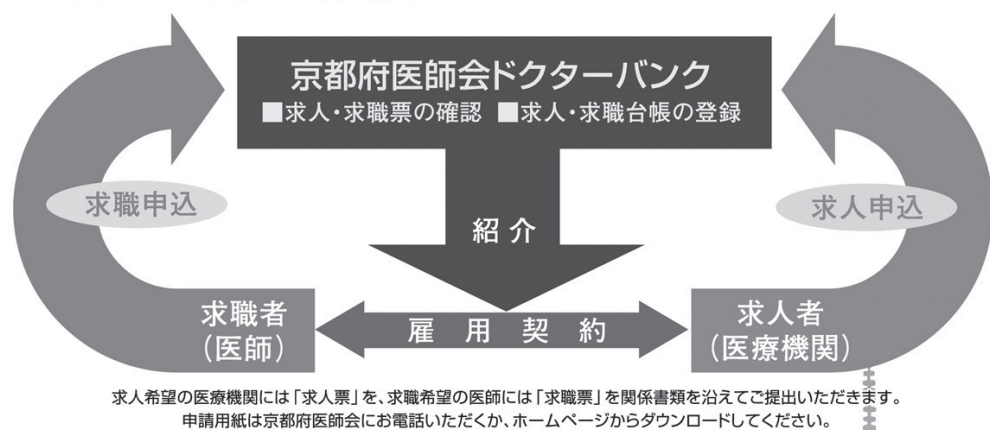
京都府医師会医師無料職業紹介所

京都府医師会ドクターバンク

京都の医療を守るために...

京都府医師会では、厚生労働省の認可を受け、2008年6月から「京都府医師会医師無料職業紹介所」(京都府医師会ドクターバンク)を稼働させました。

京都府医師会ドクターバンクは社団法人京都府医師会が独自に行う事業で、営利を目的とせず、適切な医療供給体制を担うための「医師無料職業紹介事業」です。



地域医療を支える、新しいネットワーク

京都府医師会ドクターバンク
ホームページも開設!
<http://www.kyoto.med.or.jp/member/bank/index.html>

京都府医師会 医師無料職業紹介所

〒604-8585 京都市中京区西ノ京桐尾町3-14 京都府医師会館内

TEL: 075-354-6104 FAX: 075-354-6074 E-Mail: dr-bank@kyoto.med.or.jp



愛媛支部総会出席者

独の救急医療体制学ぶ

木下研一先生が講演

【愛媛】平成23年12月3日

（土）、今治国際ホテルにて平成23年度芝蘭会愛媛支部総会が開催されまし

た。京都に住んでいると四国にはあまり馴染みがありませんが、愛媛県はしまなみ海道により本州からのアクセスが格段に良くなっており、京都から今治までは車で5時間程度あれば到着できま

す。会は支部長である門田内科循環器科医院の門田和紀先生のご挨拶から始まり、まず支部会運営に関する議事が順次進め

られました。今年度の愛媛支部会では重要な変更が行われました。それは、これまで年間30000円であった支部会費を完全に無料にするというもので

す。愛媛支部では経費の削減に成功し、当面は余剰金やその他の収入など

で支部運営を賄うことができるようになったと

のことです。

次に、京都大学医学研究科・医学部・附属病院等に関する現状報告が行

われました。医学部や附属病院の運営・教育・研究体制、新しく設立され

た積貞棟や学生会館の概要などさまざまなことが報告されました。特にこ

こ数年の間には、先端医療開発スーパート区の研究事業に加え、積貞棟、学生会館、iPS細胞研究

所、先端医療機器開発・臨床研究センターなどが続々と竣工し、施設・事業内容ともにますます充実してきています。われ

われ学生は素晴らしい環境の中に置かれていることに感謝しつつ、多くのことを身につけていきたいと感じました。

続いて、木原病院の木下研一先生により、ドイツの救急医療体制に関する講演が行われました。日本の救急医療の危機が

叫ばれて久しいですが、ドイツと日本の制度・システムを比較し、どのような問題点があり、どう改善するべきかという指摘がなされました。ドイツでは、家庭医の制度が確立しており、家庭医と救急の司令部が救急医療の中心を担っていると言えるそうです。日本と大きく違う点としては、①入院が必要となる緊急救命と外来で治療可能な外来救急がしっかりと分けられており、外来救急では開業医・家庭医が重要な役割を担っていること

②人口10万人に1カ所の割合で初期共同救急診療所が、50万人に1カ所の割合で各科専門医救急診療所が設けられているということ

③法・規則で明確な制度が作られており円滑な運営がなされていること

④それゆえ、ドイツ国内どこでも24時間365日救急医療が充実しているということが挙げられるそうです。さらに、緊急救命を主に担う司令部は洗練された救急隊員で構成されており、搬送先の病院も司令部で決定できるため、救急車に患者を乗せてから搬送先を探すのに何十分もかけるとい

うことはなく、すぐに発車できるとい

う体制が整っているそうです。また、軽症と思われる外来救急に

来た患者を、場合によっては緊急救命に転送するということもあるそうです、そのような制度も整っているそうです。

講演に対するディスカッションも非常に活発に行われ、特に日本

の現場でどのような

用ができるのかというこ

と、開業医の救急への参

加の問題点に関する議論

が行われました。

講演終了後には会場を

移して懇親会が行われま

した。懇親会中には、愛

媛県の医療が抱える問題

や、日本全体の救急医療

制度の問題という学術的

な話題から、学生時代の

部活動などくだけた話題

まで、とても賑やかに会

話が交わされました。ま

た、多くの先生方がわれ

われ雑談部員に気さく

にお声をかけてくださり、

とても有意義な時間を過

ごさせていただきました。

会

は終始賑やかな雰囲気

で進み、惜しまれながら

も散会となりました。

最後になりましたが、この

のような貴重な会に参加

する機会をいただきたく

たことに感謝の意をもつ

て、支部総会の報告を終

わらせていただきます。

（文責…1回生 宮崎規晶）

訂正とお詫び

芝蘭会報第172号（前号）に誤りがありました。会員ならびに関係者の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしました。謹んでお詫びするとともに、次のとおり訂正いたします。

芝蘭会報第172号5ページ 支部だより：京都支部（写真説明）・誤「司会の真鍋先生」→正「乾杯挨拶をする米田先生」

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異動内容
H23.8.31	藤本 新平	辞職 糖尿病・栄養内科学准教授より高知大学教授へ
H23.8.31	深津 敦司	辞職 腎臓内科講師より愛知県八千代病院へ
H23.9.1	中村 仁洋	採用 国立障害者リハビリテーションセンター研究所室長より脳機能総合研究センター脳機能イメージング准教授へ
H23.9.1	横山 明彦	採用 国立がん研究センター研究所ユニット長よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H23.9.30	久場 博司	辞職 高次脳科学神経生物学准教授より名古屋大学教授へ
H23.9.30	森本 剛	辞職 医学教育推進センター講師より近畿大学教授へ
H23.9.30	澁谷 景子	辞職 放射線医学放射線腫瘍学・画像応用治療学講師より山口大学教授へ
H23.9.30	大谷 篤史	辞職 感覚運動系外科学眼科学講師より和歌山医療センター眼科部長へ
H23.9.30	中山 富貴	辞職 感覚運動系外科学整形外科科学講師より公立豊岡病院整形外科部長へ
H23.10.1	八角 高裕	採用 特定病院助教より発生発達医学発達小児科学講師へ
H23.10.1	宮澤 崇	採用 附属病院助教よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H23.10.1	友田 利文	採用 ベックマン研究所助教よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H23.10.1	疋田 貴俊	採用 大阪バイオサイエンス研究所研究員よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ

発令年月日	氏 名	異動内容
H23.10.1	岩倉 浩	採用 附属病院特定助教よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H23.10.1	中村英二郎	採用 ダナファーマー癌研究所研究員よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H23.10.1	片岡 直行	採用 生体構造医学形態形成機構学特定准教授よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H23.10.1	朝霧 成拳	採用 カリフォルニア大学研究員より次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定准教授へ
H23.10.1	瀬戸口留可	採用 理化学研究所研究員より次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定講師へ
H23.10.1	吉村 耕治	昇任 器官外科学泌尿器科学講師より同准教授へ
H23.10.16	柳田 素子	採用 京大次世代研究者育成センター特定准教授より内科学腎臓内科学教授へ
H23.11.1	小濱 和貴	昇任 病院助教より外科学消化管外科学講師へ
H23.11.1	福井 巖	昇任 高次脳科学神経生物学助教より同准教授へ
H23.12.1	小賀 徹	昇任 呼吸管理睡眠制御学特定講師より同特定准教授へ
H23.12.1	高橋 由光	採用 子どもの健康と環境に関する全国調査京都ユニットセンター特定助教より健康管理学健康情報学講師へ
H23.12.1	大久保和俊	昇任 病院助教より器官外科学泌尿器科学講師へ

会 員 計 報

（敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

足立道五郎（昭和15年卒）平成23年10月27日 ご逝去
真期 久（昭和15年卒）平成23年5月26日 ご逝去
吉井 達郎（昭和16年3月卒）平成23年9月1日 ご逝去
手島 弘毅（昭和16年12月卒）平成23年12月29日 ご逝去
森田満寿治（昭和17年卒）平成23年8月29日 ご逝去
高橋 吉郎（昭和18年卒）平成23年8月2日 ご逝去
佐藤 勲（昭和19年卒）平成23年12月3日 ご逝去
中島 宣之（昭和19年専卒）平成23年8月7日 ご逝去
安田 十一（昭和19年専卒）平成23年8月1日 ご逝去
宮岡 邁（昭和20年卒）平成22年11月2日 ご逝去
小西 信哉（昭和21年卒）平成24年1月5日 ご逝去
代田就一郎（昭和21年卒）平成23年8月4日 ご逝去

田中 寛治（昭和21年卒）平成23年11月26日 ご逝去
永田 二郎（昭和22年卒）平成23年6月2日 ご逝去
野村 源藏（昭和23年卒）平成23年9月4日 ご逝去
完岡 市光（昭和23年専卒）平成23年9月3日 ご逝去
鈴木 定雄（昭和24年卒）平成23年5月20日 ご逝去
原本 康民（昭和24年卒）平成23年9月25日 ご逝去
和田 久一（昭和24年専卒）平成23年7月11日 ご逝去
箱田 允昭（昭和27年卒）平成23年10月9日 ご逝去
松尾 裕（昭和28年卒）平成23年10月2日 ご逝去
井口 孔（昭和28年業卒）平成21年8月21日 ご逝去
外林 秀紀（昭和30年卒）平成24年1月12日 ご逝去
大原 康生（昭和32年卒）平成23年8月26日 ご逝去

伴 隆志（昭和32年卒）平成23年9月28日 ご逝去
戸崎 道雄（昭和33年卒）平成19年7月9日 ご逝去
松岡 実弥（昭和34年卒）平成23年2月27日 ご逝去
隅田 昌宏（昭和35年卒）平成23年4月28日 ご逝去
楠本 長成（昭和38年卒）平成23年10月9日 ご逝去
伊藤 博康（昭和40年卒）平成23年9月25日 ご逝去
森川 博史（昭和42年卒）平成23年6月1日 ご逝去
木村 次大（昭和46年卒）平成20年 ご逝去
釘抜 正康（教室会員 解剖3）平成23年8月15日 ご逝去
片山 洋平（教室会員 公衆衛生）平成23年7月28日 ご逝去
片岡 正（教室会員 法医学）平成23年9月17日 ご逝去
西村喜代子（教室会員 内科2）平成23年8月23日 ご逝去

芝蘭会報編集委員会
委員長 中尾一和
委員 斎藤信雄、岩田征良、豊岡伸哉、山田圭介、園部 誠、阿部 恵
顧問 中尾一和
部 員 植木一仁、武井玲生仁、水野裕基、福永有伸、畑玲央（以上6回生）
合田直樹、福田宗寛、勝島將夫（以上5回生）
橋本健太郎、中村有輝、山田直生、畑野翔太郎、前田峻宏、宗宮伸弥、柳井谷駿史（以上4回生）
真辺諒、森山太陽、鶴田将史（以上2回生）
赤埴未宝、宮崎規晶（以上1回生）
芝蘭会事務局
事務局長 山田 均
総務課長 秋山和美
管理課長 松本 惇

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。（FAX 075-752-4015）